

3

まちの将来像

### 3-1. まちの将来像

## 「にぎわいあふれる多文化都市、 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」

時代に応じて求められる新しい技術や環境が整い、利便性高くゆとりある空間が多様な文化や習慣を受け入れるとともに、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人などの多彩な活動により、いざなり豊かな魅力を生み出しています。この魅力に惹かれて、国内外から多くの人々が集まり、まちは活気づき、にぎわいあふれ、持続的に価値を高め発展しています。



目指すべき将来像は時代が変わっても普遍的なことから、平成 22 年に策定したグランドデザインにて示した将来像を継承することとします。

## 3-2. 将来像の実現に向けて

### 1) 都市構造

将来像の実現に向け、本地区の特徴や役割を踏まえ、まちの骨格となる地区内拠点及び都市骨格軸を設定します。

#### 【地区内拠点（JR・東急蒲田駅前拠点・京急蒲田駅前拠点）】

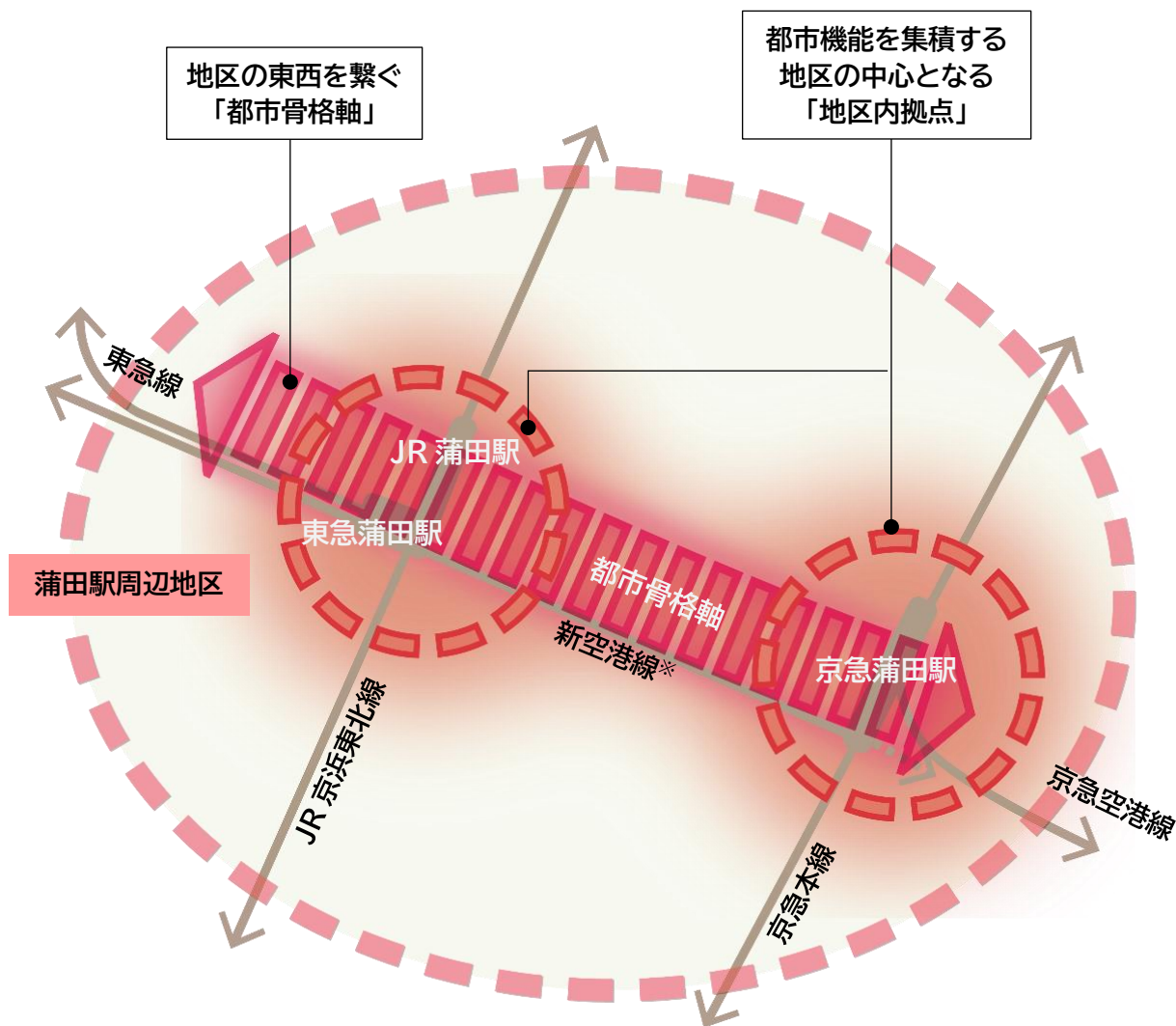
区内外をつなぐ交通結節点※であり、まちの中心である JR・東急蒲田駅及び京急蒲田駅とその周辺を「地区内拠点」に位置付け、より重点的・積極的なまちづくりを推進し、駅からまちをスムーズにつなぎ、人々をまちへ誘導します。

#### 【都市骨格軸】

本地区の東西と地区内拠点間をつなぐ軸を「都市骨格軸」に位置付け、まち全体を繋ぎ一体性を創出し、にぎわいの広がりをつくります。

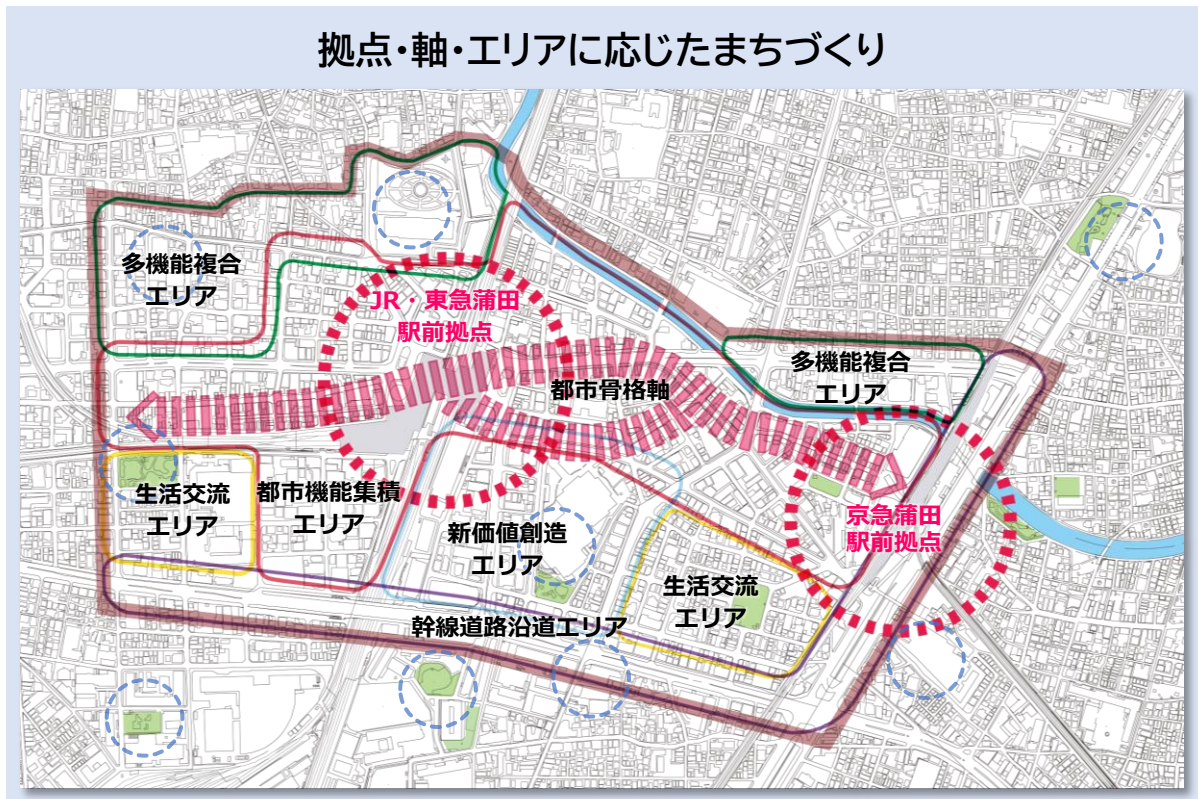
#### （ 2核1軸の都市構造 ）

ヒト・モノ・コトを集め、骨格を中心として生じるにぎわいが地区全体に波及する、2つの拠点を軸が繋ぐまちの骨格を形成します。



## 2) まちづくりの方向性

「第2章 まちの特徴と課題」で整理した通り、本地区は特性に応じて5つのエリアに区分されます。前頁の都市構造で示した2つの地区内拠点とまちを繋ぐ都市骨格軸や5つのエリアの役割に加え、特徴に応じた取組（アクション）を総合的・横断的に行うことにより、まち全体が活気とにぎわいにあふれ、持続的に価値を高め発展させていくことを目指します。



## 3) エリア区分の考え方

各エリアの特徴を活かしながら、アクションにメリハリを付けて取り組むことが重要です。

なお、エリア毎に明確な境界があるわけではないため、境界付近では隣接するエリアとの協調や融合など、一体的なまちづくりを意識した取組を行っていくことが必要です。

都市機能集積エリア		生活交流エリア	
新価値創造エリア		幹線道路沿道エリア	
多機能複合エリア			

### 連携施設

本地区内に誘導する機能との連携・相乗効果により、蒲田地区の活性化、利便性・防災性の向上が期待できることから、連携のあり方等について検討していく。検討の深度化に応じて、必要な取組や地区計画<sup>※</sup>などの制度を活用し、効果的・効率的な土地利用を促進し、本地区内との更なる連携強化を図る。